

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高等部卒業後の支援のある自立と社会参加をめざし、学校が保護者・地域・関係機関と連携して「チーム高槻支援」で教育活動の充実に取り組みます

① 障がいのある生徒の可能性を最大限に伸ばし、社会の一員として育てる学校 →Challenge 挑戦(Challenge)する生徒を育てる高等部(平成26年度継続)

② 本人・保護者・地域社会の願いや期待に応える学校 →Change 変化(Change)する願いに応える高等部(大規模改修終了時迄)

③ 全教職員の教育実践力及び専門性の向上を常に追求し続ける学校 →Chance 学部・分掌間成果を共有化する機会(Chance)を創る高等部(平成26年度継続)

2 中期的目標

- (1) 信頼される安全で安心感のある学校づくりを推進
- 安全・安心な学校づくり、インクルーシブ教育システム構築による地域貢献ができる学校づくり。
 - ・安全意識、危機管理対応を常にシュミレーションし、備えていく。
 - ・地域の支援者や交流校との協働により創立50周年を機に、本校通学区域に小さな「共生社会」(多様性のある全員参加型社会)の実現をめざす。
 - 創立50周年に向け、交流校との共同学習や地域との連携活動、授業づくりを更に強化・充実。
 - ・平成26年度学校経営推進費で「JRからも見てください高槻ビッグアート」制作を地域校等との交流・共同学習として推進、この沿線・地域の恒常的なシンボルを支援学校から発信することで本校児童生徒はもちろん地域のモチベーション、障がいのある子どもへの支援力を上げていく。
 - ・「プレ50周年」で助走しつつ北摂の知的障がい教育伝統校の使命を生徒・教職員・保護者・地域で共有する。
 - 全体の奉仕者、公務員としての自覚と行動を徹底。
 - ・「コンプライアンス・アカウンタビリティ・高い人権尊重の意識」を堅持しつつ支援教育を推進する。
- (2) 地域の社会資源などを活用し 卒業後につながるキャリア教育を推進
- 「清掃技能検定」や校外実習に取組み、「就労するのは今!」の姿勢で18歳の春を挑戦の契機に。
 - ・就労支援コーディネーターの活用により規範・ビジネスマナー・社会通念を体得する。
 - 地域への就労支援をはかる教育を推進。地域や関係機関との連携した「ネットワーク型教育実践」を創造。
 - ・地域の高等学校や事業所等と連携した教育実践を推進する。
 - ・オンザジョブトレーニング(OJT)の発想を基にした体験型の教育実践を推進する。(校外実習・交流共同学習・奉仕作業など)
 - 小学部・中学部・高等部の一貫性あるキャリア教育を実践。
 - ・児童⇒生徒のつながりを意識化した実践と個別の課題を共有した指導を継続する。
- (3) 知的障がい生徒の「可能性をのばす教育実践」を推進
- 知的障がい生徒の「多様なニーズに応じた多様なコース制」2年目での学習成果の検証と推進。
 - ・「職業コースの教育内容の充実と実習先開拓等進路指導の充実」を実現する。
 - ・3コース9科目での個々の生徒の今年の目標を具体的に設定、達成に向け環境調整する。
 - ICTや外部人材を積極的に活用。
 - ・生徒の学びや体験の質を高め、生活の幅を広げていく。
 - 指導計画等を汎用的・効果的に活用。
 - ・個別の教育支援計画と移行支援計画、個別の指導計画と通知表等の整理と連動システムを構築し、生徒のキャリア可視化のツールとする。
- (4) 学校経営組織として専門性の高い機動的な教職員集団「チーム高槻支援」を育成
- 教職員の支援教育・教科指導・生徒指導の専門性の向上。障害者権利条約の批准や障害者差別解消法の制定など国のインクルージョンの動きに立つ。
 - ・一人ひとりに係る複数の教職員が、生徒の困り感に寄り添い、障がい特性や環境調整に向けて適切な対応や支援ができる。
 - 学校組織の一員としての役割を果たす人材を育成。
 - ・機動的な生徒支援体制を強化し、常に情報を共有化して課題に迫り、主体的組織的に状況の改善に取り組んでいく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施]	学校協議会からの意見(平成26年度)
<p>保護者、教職員を対象に実施、25項目</p> <p>【回収率】保護者74%(高69%)、教職員75%(高72%)</p> <p>【昨年度比】:保護者+13%、教職員-11%(高-10%)</p> <p>【保護者】肯定90%以上と評価していただいている項目は学校が楽しい、保護者との連携、学校行事、「個別の教育支援計画」説明・作成・活用、通学バスの5項目。50%以下の項目は事故・災害時等の教員体制、初任教員等への育成、ICT環境整備の3項目⇒これらは「わからない」も平均45%。否定的な回答:15%以上が4項目、「将来の生き方支援」についての17.5%が最高 概ね賛成いただいているとはいえ卒業後の生活イメージ育成には保護者ニーズが満たされていない。防災等学校情報や教員体制の周知・広報に努めること、子どもの悩みの受容や系統的キャリア教育は求められている。</p> <p>【教職員】肯定90%以上は8項目、50%以下は1項目と保護者よりやや寛大。一方否定的な回答15%以上が10項目、初任教員等への育成や教員保護者の学校運営参画は否定的30%以上。新しい人材や提案の活用が円滑と言えない現状の反映と捉え、次年度体制構築への課題としたい。また、本回収率は低下傾向にあり、個々の活躍フィールドへの目配りやモチベーション向上と参画意識の醸成が課題である。「チーム高槻支援」を掲げたが更なる情報発信と対話の姿勢と努力が必要。</p>	<p>第1回(平成26年5月14日) 授業見学(中)・学校協議会の在り方等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度学校協議会、協議事項・内容・方針および委員委嘱・新委員紹介 ・本年度の学校経営計画:「就労支援・キャリア教育強化事業」での清掃技能検定や「学校経営推進費」を地域との共働をテーマに挑戦する⇒期待する。・50周年記念事業(平成27年度)にむけて学校協議会として支援の意向を示す。 <p>第2回(平成26年10月22日) 授業見学(小)・公開研究授業、教科書採択等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/14~実施「プレ50周年公開授業・講演会・分科会」報告:支援学校をよく知らない外部への支援教育理解推進のために50周年を活用してほしい、と要請あり。 ・使用教科書閲覧と採択過程の説明、教科書使用について:「授業での活用度が低いのでは」「使える教科書を採択し、教員と生徒で活用されたい」等質問と要望を受けた。 ・学校経営推進費「地域支援室」「たかつきビッグアート(以下TBA)」進捗報告:「壁に絵を描きたい」本校生の思いを地域とのインクルージョンに結びつけ50周年で開花させてほしい、とエールをいただく。 <p>第3回(平成27年2月13日)授業(高)と「たかつきビッグアート」等見学報告と 提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「就労支援・キャリア教育強化事業」成果報告、高3進路報告⇒高1実習週間実施、高2企業等実習55%高3就労率17.8%とは出口効果目覚ましい。福祉サービス等社会資源の情報提供・フォロー体制の整備強化が急務。・学校教育自己診断⇒保護者等の「わからない」回答について説明責任がある。設問の明確化や学校情報の提供等推進を。 ・学校経営推進費成果 TBA:壁面見学・報告⇒校舎壁面が出現し児童生徒の達成感や地域からの注目度向上している。住民のサークル活動とのコラボ等次年度への地域連携計画に期待する。 ・学校から補足説明:ブログ等で進捗を随時発信中。アンケート等年度内実施予定。次年度もTBA土台に獲得めざす。 ・「プレ50周年公開授業」は略案等質高く授業数も多かった。1月の参観週間実施とともに開かれた学校姿勢を評価できる。継続と推進、経験の少ない教員へのバックアップ体制を充実されたい。教科書等基準への依拠が糸口では。 ・コース制:学習コース等の生徒にも資格取得・就労へのチャンスを広げられたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 信頼される安全で安心感のある学校づくりを推進</p>	<p>ア 安全・安心な学校づくり</p> <p>イ 創立 50 周年記念行事に向けた取組み</p> <p>ウ 人権尊重の教育</p>	<p>H26 年度は⇒新企画の Chance(機会) を実践へ</p> <p>ア○防災・防犯：マニュアルの整備、PTA と連携し備蓄品・設備・携行品等の更なる整備、すぐメールや公的情報網の活用推進する。体験的訓練の実施や福祉避難所指定を模索する。 ○ヒヤリハット事例の未然防止に努めつつ迅速に対応し、報連相を徹底する。</p> <p>イ○50 周年プロジェクトの中心に平成 26 年度学校経営推進費による「JR からも見てください高槻ビッグアート」制作を位置づけ、①バス通路壁画の制作②ビッグアート原画コンペで、地域・保護者ととも児童生徒が祝う気運を醸成し、次年度 50 周年での懸垂昇降装置設置への準備を整えていく。 ○「授業づくり研修」2 周(4 年)目を 50 周年行事と連動させ発展的に企画し、公開授業・研修(府内へ発信)等を実施する。</p> <p>ウ○合理的配慮の視点で日々の教育活動を検証しつつ推進する。 ○全ての教育活動の根底に一人ひとりにとっての社会参加の育みを据える。個別の教育支援計画や学校教育自己診断、授業アンケートその他のツールを保護者・教職員が積極活用する。</p>	<p>ア・すぐメール登録率を 85%に ・緊急地震速報を取り入れた実地避難訓練、警察等の協力による体験的防犯訓練実施 1/17 生徒向け防災教育の 3 学部での実施 ・ヒヤリハット事例を健康安全上と生徒指導 障がい特性上に分析し、防止のため外部講師研修実施。</p> <p>イ・壁画制作協働校 3 校以上、本校生徒ら参加 7 割以上、制作壁画 30 幅以上、コペへの本校生参加 9 割、企画運営に交流校との協働、参加協賛団体 5 件以上。 ・地域支援者の制作参加や支援 3 回以上 ・授業づくり研修 5 回以上 ・10/15 に向け全教員略案作成 ・高等部内研 4 回</p> <p>ウ・新入生への「意見書」案内と准校長対応、いじめ防止週間 2 回実施 ・学校教育自己診断の項目の再検討をし、授業アンケート回収率を 59%⇒70%に</p>	<p>ア・「地震発生時の対応マニュアル《暫定版》」作成し保護者教職員に配付(○)・PTA による防災・備蓄品アンケートの実施と整理、結果周知完了(○)すぐメール登録率教員 60%保護者 70%(△)・体験的教員研修(防犯⇄外部講師)に加えて防災も実施済み(◎)・生徒避難訓練安全教室等 4 回実施、1/19 実施(○)</p> <p>イ・「たかつきビッグアート(以下 TBA と表記)原画コンペに本校児童生徒 名交流 3 校応募、順次進行状況を web アップ中・毎日新聞で紹介(1/22)、3 校舎壁画への描画が 1 月～3 月完成(◎)・府教委の計画変更指導で地域とのバス通路等描画活動は次年度へ(△)</p> <p>・授業づくり 15 日授業者全員の略案完成(○)、研修は 3 回(△)、部内研出席率(△)</p> <p>ウ・いじめ防止週間活用(◎) ・項目変更なし(△) 授業アンケート 3 回実施(○)</p>
	<p>ア 国事業「キャリア教育・就労支援等の充実事業」の活用</p> <p>高等部コース制全体でも地域での継続的な就労体験学習を実施(ネットワーク型実践と地域連携)</p> <p>イ 小中高の一貫性あるキャリア教育を実践</p> <p>ウ 個別の諸計画の活用</p>	<p>H26 年度は⇒キャリア教育の各種 Challenge(挑戦) へ</p> <p>ア○職業コース・プレジョブ履修生を中心に「清掃技能検定」を企画し、社会規範に照らした自己理解を深める中で企業就労などへのモチベーションを育む。 ○「就労するのは今！」を合言葉に就労支援コーディネーターを活用し、生徒・保護者・地域等の意識改革を図る。 ○従来からの職場実習を踏まえオンザジョブトレーニング(OJT)として授業を実施。 ○地域・商店街等の関係者による実習場所の確保を図り、教育課程に体験学習を位置づける。 ○校外での学習活動場所リストを作成する。 ○「キャリア基礎講座」をさらに充実させる。</p> <p>イ○「進路のてびき」を全家庭配付し、進路関係説明会を小中学生保護者にもオープンにし、早期から卒業後のイメージを共有する。 ○高等部での職場体験(実習)週間等を校内で可視化し、みんなで応援する気運を育む。</p> <p>ウ 「個別の教育支援計画(移行支援計画)」に 3 年間の取組みや実習歴、外部からの指摘、本人・保護者の受け止め等記入する。</p>	<p>ア・年度内に「清掃技能検定」を校内試行実施 ・就労支援 CO によるキャリア教育研修(教職員・保護者向け)や PTA 事業所見学実施、企業事業所向け「高槻支援学校見学会」の実施 ・「実習させてください！」パンフの作成と活用 ・新連携事業所 8 か所、実習週間(5 日)の継続と拡充、地域の販売実習先開拓(2 ヶ所以上) ・校外実習では 45 分授業 ・「キャリア基礎講座」8 回⇒10 回</p> <p>イ・市町別事業所説明会等への小中高 1 等の出席奨励 ・PTA 等の実習見学会実施</p> <p>ウ・移行支援計画の改定と進路について、学校教育自己診断による保護者等満足 80%以上を目標</p>	<p>ア・「高槻支援ジョブリーダー」テキストと評価表、4 検定で完成(◎) ・外部向け学校見学会は 3 回実施(○)できる予定 ・(◎)協力企業名も掲載 ・(◎)事業所 5 か所、企業等 8 か所、高 1、2 年実習週間実施 5 日×3、高槻福祉展等と富田商店街で販売実習 3 回(○) ・校外実習 45 分授業(○) ・キャリア講座 9 回(△) ・本事業の成果報告会を 2 月 18 日実施予定 ・広島、千葉県に技能検定・学校視察派遣 4 回</p> <p>イ・作業所説明会には全校 73 名、進路説明会に高等部 62 名出席(○) ・24 か所で実施、のべ 202 名参加(○)</p> <p>ウ・移行支援計画、改訂中(△)</p>
<p>(3) 知的障がい生徒「可能性をのばす教育実践」を推進</p>	<p>ア 「コース制」学習成果の検証と推進</p> <p>イ 授業での ICT の活用</p> <p>ウ 授業・教育活動への外部人材活用</p>	<p>H26 年度は⇒ICT 機器(タブレット等)の活用実践へ</p> <p>ア○各コースごとに今年度の目標を設定し、生徒の挑戦を支援する。目標を設定し、進捗・達成状況を保護者・外部関係者(学校協議会・本校 Web)等にオープンにする。</p> <p>イ○明瞭迅速な視覚支援や教材提示の手段として授業の質を高めるために教員が活用する。 ○タブレット等を生徒個々が学習・コミュニケーション支援・連絡ツール等として活用することで生活を豊かにできるよう、授業を通じて体験・習得の機会を設定する。</p> <p>ウ○人材バンク登録者や就労支援コーディネーターなど外部人材を講師とした授業・学習活動を推進する。 ○地域などの支援者と協働する。「南中庭プロジェクト」</p>	<p>ア・コース制の科目での学校教育自己診断による保護者等満足 80%目標 ・検定への挑戦や成果物(高槻支援ブランド 2 種類以上)の制作と販売 ・コース内容一覽作成 イ・ICT(タブレット)活用促進のための全体研修 3 回以上 ・産学連携の ICT 活用モデル校へ挑戦(次年度対象校をめざす)</p> <p>ウ・授業研究会時に、キャリア教育実践者を招聘し、外部状況の理解を深める新視点を導入・三島会など地域のボランティアと本校南中庭などの整備・環境づくりに着手</p>	<p>ア・評価指標を考案中(△) ・検定は次年度課題へ 製作・販売を高槻福祉展で実行(△) ・目標、内容を保護者へ、シラバス完成(◎) イ・3 回うち 1 回は選択研修(○) ・機器使用頻度は 153 日/年(○)</p> <p>ウ・「就労支援・キャリア教育強化事業」高槻支援成果報告会で大和大学落合敏郎教授の授業参観、講評、講演、ほか外部人材活用 54 回(高等部のみ)(◎) ・南中庭プロジェクト 2 回赤大路 COM、ひまわりの会と生徒(授業)で実施(○)</p>
	<p>(4) 高い機動的な教職員集団を育成</p>	<p>ア 機動的な生徒支援体制を構築</p> <p>イ 教職員の専門性向上・支援教育の質向上</p> <p>ウ 組織の一員の人材づくり</p>	<p>H26 年度は⇒生徒保護者だけでなく Change(変化)の機運を教職員へ</p> <p>ア○学年主任、部主事、進路指導部長、生徒指導主事、教務部長などをキーパーソンに、生徒の状況や教育活動の進捗を常に共有する。</p> <p>イ○個々の教員がインクルーシブ教育の理念に立ち、生徒の自立に向け生徒指導・進路指導を行う。 ○高等部部内研等を活用し、授業研究の実践継続(小中高一貫して)と教員の主体的な参画を促す。 ○個別の指導計画と通知表の一体化を推進する。 ○統合ネットワーク化に合わせ指導計画・進路指導情報等共有化に ICT を更に活用する。 ○支援教育の基礎知識を本校関係者に啓発し、児童生徒支援の向上に努める。</p> <p>ウ 首席部主事会(H25～週 1 回)、運営委員会Ⅱの活用を促進する。 ○組織の一員としての自覚・自主性の醸成 ○学校経営への参画意識の活性化</p>	<p>ア・週 1 回「高等部経営会議」を持ち、目標到達度等を確認。すべての情報が責任者に伝わるシステムの再点検</p> <p>イ・授業づくり研修での高等部教員の出席率 50%以上 ・H27 年度から個別の指導計画と通知表一体化 ・教員以外の本校勤務者等への支援教育への理解推進と啓発</p> <p>ウ・分掌長面談等により学校の課題に担当者が主体的に取り組める支援をする。 ・将来構想を考える 2 会議で中堅・若手の提案割合 40% ・分掌長や主任に 50 歳以下登用割合ます 50%</p>